

平成 28 年度第 2 回学校給食青果物地産地消関係者協議会

佐世保市学校給食会は、教育委員会（学校・学校給食センター）と連携して地産地消を推進していますが、青果物については会議を設置しており、今般その会議を開催しました。

開催日時 平成 28 年 12 月 9 日（金）

場所 佐世保市学校給食青果物納入事業協

構成 ながさき西海農業協、佐世保青果㈱、佐世保市学校給食納入事業協
市教育委員会(コーディネーター)、市農水商工部(アドバイザー)

主催者 学校給食会

議題 地産地消の推進について

本協議会の目的は青果物の地産地消の推進ですが、具体的な項目として、「献立に地場産品を取り入れること」と「佐世保青果市場にできるだけ多くの地場産品の入荷を図ること」を定めており、「情報共有」と「関係者の協力」を本協議会の目標としています。

会議の冒頭で、本年秋以降の青果物の価格高騰について意見が出され、佐世保青果㈱が、熊本の地震被害や北海道の台風被害のほか、地元産についても天候不順が原因となっている等の説明がありました。

今年度は新たに江迎、鹿町地区のさつま芋を学校給食で使用することとしていましたが、そのうち江迎産を 11 月に使用し、大変好評を得ました。江迎は従前からさつま芋の生産が行われていたとのことです。一方、鹿町は今回初めて作付けを行いました。初めての試みであったこともあり、学校給食の規格に合うものが少なかったことから、今年度の学校給食への納入はできませんでした。しかし生産者は次年度へ向け研究しながら生産を続ける意向であるとの報告がありました。

本年度の今後については、ブロッコリー、キャベツ、レンコン、大根、イチゴなどについて、例年通り佐世保産の納入を図ることが確認されました。

